

日本の大学生を主体としたネパール震災におけるクライスマッピングの取組み事例 The Crisis Mapping Efforts of Nepal Earthquake Consisting of Japanese University Students

海本 卓矢^{1*}
KAIMOTO, Takuya^{1*}

¹ 奈良大学大学院文学研究科地理学専攻
¹ Graduate School of Geography, Nara University

本報は、日本における大学生を中心としたネパール震災におけるクライスマッピングの途中経過をとりまとめたものであり、ネパール地震の復興支援と、今後のクライスマッピングにおける大学生の活動の普及を目的としたものである。

2015年4月25日にネパール中部を震源にM7.8の地震が発生し、首都カトマンドゥを中心に8000人を越える犠牲者が生じた。こうした被害に対して国際的な救助や復旧支援が行われており、これらの活動を行うために必要な道路や家屋・集落、被害範囲を含む災害地域のデジタル地図を作成し、また現地の被災状況を整理する手段としてWeb上の地図に集約する支援活動「クライスマッピング」が世界中で取り組まれている。クライスマッピングは「OpenStreetMap」というWikiベースの地図を基盤に活動が進められており、この活動への参加は自由であるためより多くのボランティアが参加することで被災地の地図が充実する。

日本では、この震災から3日後の4月28日にクライスマッピングに関する情報共有を目的としてCrisisMappers Japanが、Facebookを通じて設立された。CrisisMappers Japanは、全国の大学生を中心に、若手研究者、様々な機関・企業の関係者などが活動に参加している。設立と同時に4月28日に、初心者向けのクライスマッピング講習会が青山学院大学で開催され、その後、酪農学園大学、立正大学、奈良大学、大阪市立大学、奈良女子大学、立命館大学など全国の大学で8大学で開催された。講習会は大学の講義で実施されるだけでなく、学生が有志で開催することもあった。これらの講習会の様子はインターネットを通じて全国に配信されることもあり、特定非営利活動法人伊能社中はインターネット会議の技術を使ったオンライン講習会を実施している。SNSを連絡手段に活動状況を共有するだけでなく、講習会をオンラインで配信することで支援方法や技術を発信することで、クライスマッピングは短い期間で全国規模に広がった。ネパールのクライスマッピングは、5月19日時点で、世界中で5000人のボランティアが参加し、そのうち全国14大学約150名の大学生がこの活動に参加している。

今後、CrisisMappers Japanでは、より多くの学生が参加しやすい体制を築いていくことを検討している。

キーワード: 復興支援, クライスマッピング, オープンストリートマップ, 大学生, ネパール地震
Keywords: Reconstruction assistance, CrisisMapping, OpenStreetMap, College student, Nepal earthquake